

「第2次健康くまもと21基本計画」

本計画では、健康増進法に基づく「市町村の健康増進計画」として、市の総合計画との調和を図り、市民の健康づくり施策の目標や方向性等について定めております。

○めざすもの(理念)

「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」

○基本目標

「健康意識の醸成」「健康分野における地域コミュニティづくり」「健康寿命の延伸」

○基本目標の指標

健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合

基準値 47.8% (H29) → 目標値 65% (R5)

自ら健康づくりに取り組んでいる割合

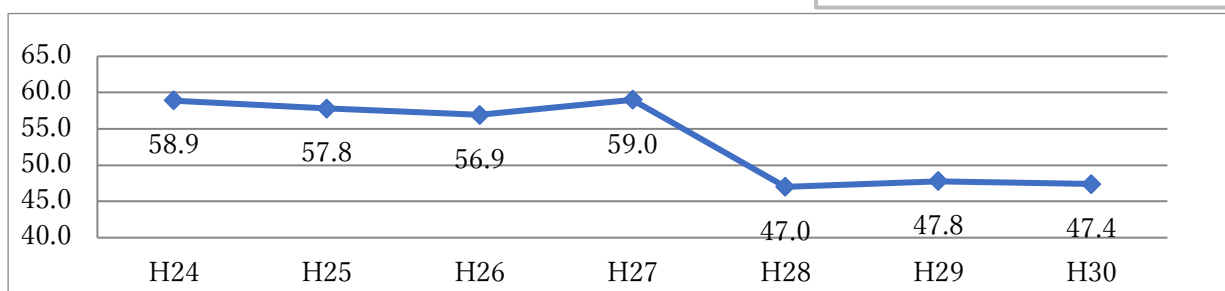
基準値 62.3% (H29) → 目標値 82.0% (R5)

○基本的な方向と取り組み項目

- (1) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
- (2) 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
- (3) 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり
- (4) 健康を支え守るための社会環境の整備

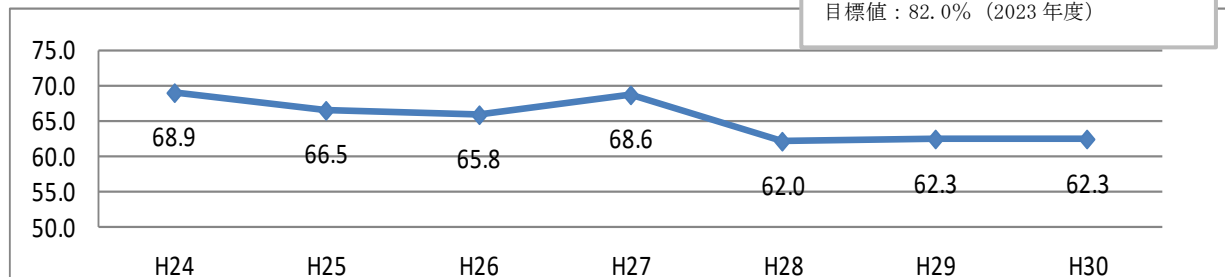
健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合

目標値：65.0% (2023年度)



自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合

目標値：82.0% (2023年度)



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(1)がんの予防 (P1~2)

【関係機関・団体】

- ・ 禁煙指導と粘膜を刺激する歯や補綴物への対処。【市歯科医師会】
- ・ 特定健診受診券送付時、熊本市のがん検診の受け方を詳細に記載した印刷物を同封。
【協会けんぽ】
- ・ 熊本地域医療センターにて市民公開講座を開催。がんの診療を中心に医学及び医療について市民に啓蒙をおこなった。参加者145名。【市医師会】
- ・ 5月の「看護の日」記念講演会で住民、医療関係者、看護学生を対象に「子宮頸がん」を経験し、活動されている方から「大切にしたい自分の体」と題した講演会と、がん看護専門看護師から「がんになっても自分らしく過ごすために」のテーマで講演を実施した。【県看護協会】

【行政】

- ・ 図書館と連携した啓発を実施。くまもと森都心プラザの図書館に、がんに関連する資料を設置。

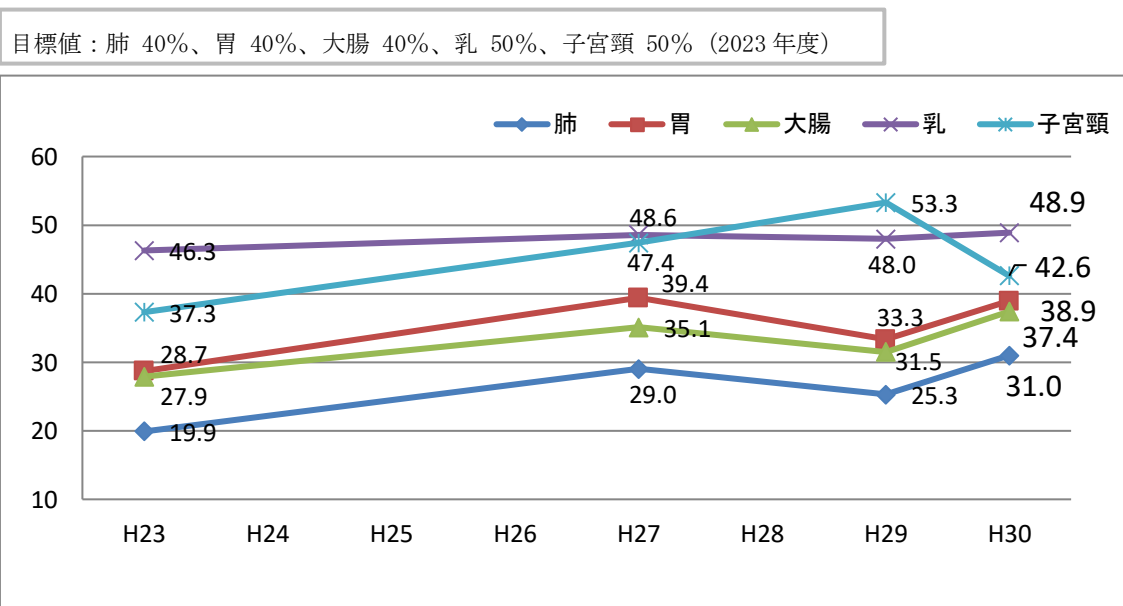
<令和元年度からの新規取り組み>

熊本市がん健診受診率向上計画の推進【健康づくり推進課】

- ・ 胃がん検診内視鏡検査導入（3月開始）
- ・ 乳がん・子宮頸がん検診次年度対象者への受診勧奨を実施する。
- ・ 満42・44・46・48・52・54・56・58歳になる女性に対し乳がん検診受診勧奨通知を送付する。
- ・ 70歳以上の方の自己負担金無料化（4月開始）

(1) がん

がん検診受診率の向上（市が実施するがん検診の他、職場検診、人間ドック等を含む）



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(2)循環器疾患の予防 (P3~4)

【関係機関・団体】

- ・ 被扶養者に対し、イオンモール他市内 11 会場で特定健診の集団健診を実施。【協会けんぽ】
- ・ 熊本市内 3 ヶ所で毎月「まちの保健室」を開催し、血圧測定・体脂肪測定等を実施しながら高血圧・脂質異常・メタボリック等についてパンフレットを使用し説明、相談を受けている。【県看護協会】

【行政】

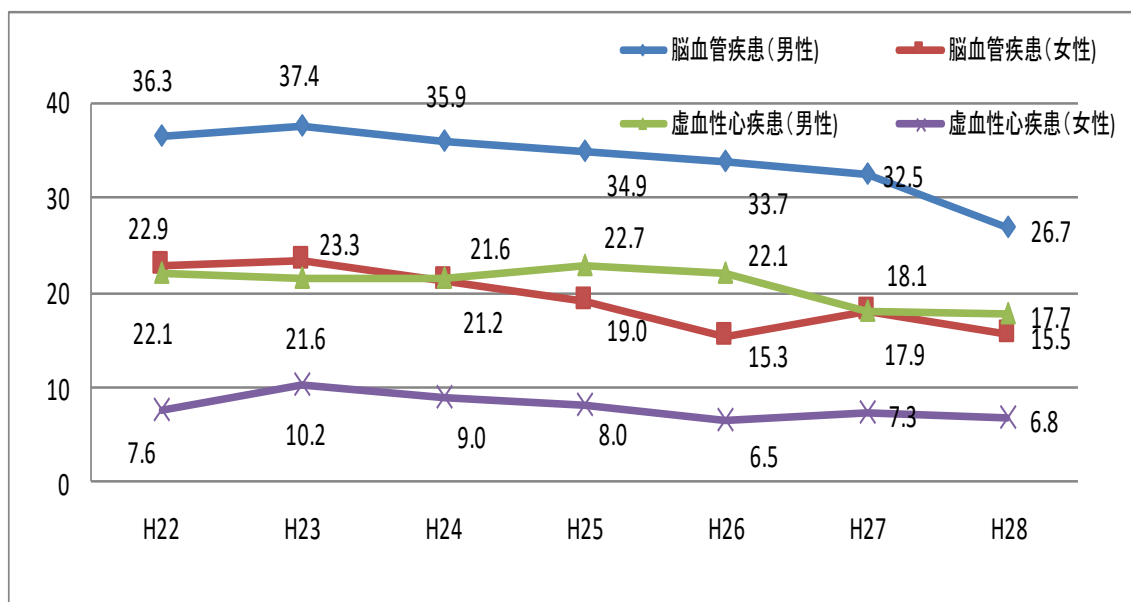
- ・ 特定健診受診率向上及び保健指導利用率向上のため、国保加入者に対し、電話・ハガキによる受診勧奨（特定健診：電話約 30,000 件・ハガキ約 95,000 枚、特定保健指導：電話約 3,000 件）【国保年金課】

(2) 循環器疾患

脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少

(10万人当たり)

目標値：脳血管疾患(2023年度)
 男性 28.4、女性 20.7
 虚血性心疾患(2023年度)
 男性 17.0、女性 4.3



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(3)糖尿病の予防 (P5~7)

【関係機関・団体】

- ・ 食生活の見直しを図り糖尿病の予防に関する研修や、運動指導士による実技を取り入れた研修を開催。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 血糖高値者へ文書及び電話による受診勧奨を実施 【協会けんぽ】
- ・ 糖尿病治療中の被保険者について糖尿病性腎症予防支援プログラムを提案し、参加希望者に対して6ヶ月のフォローを実施。(参加者52名)。治療中断者については、治療再開とプログラム参加を勧奨。【協会けんぽ】
- ・ 東区健康まちづくり推進員が各校区、町内、老人会、サロン等でPRに努める。【東区代表】

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 5月に「まちの保健室」で実際に保健指導にあたるボランティア看護職を対象に、糖尿病について糖尿病看護認定看護師を講師として研修会を開催した。【県看護協会】

【行政】

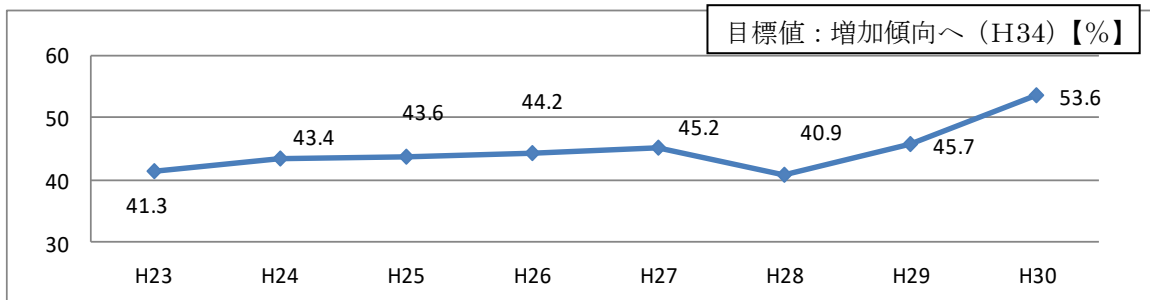
- ・ 糖尿病の早期発見のため、校区単位の健康まちづくり等の取り組みで、随時血糖測定を実施。(5区保健子ども課)
- ・ フォロー教室(健康フィットネスクラブ)の実施。
(内容)血糖値が境界域の者、かつ糖尿病治療中ではない方に対し3ヶ月間を1クールとして2クール実施。管理栄養士・運動指導士による教室を開催し、参加者の生活習慣改善と定着化のための個別のサポート、終了後のフォローアップとして、「卒業生のつどい」を開催した。【中央区保健子ども課】
- ・ 北区の幼児健診同行保護者に対し、問診・簡易血糖検査、骨密度検査を行い、検査の結果、すぐに改善が必要な者に対して保健指導を実施。【北区保健子ども課】
- ・ 国保特定健診の結果、糖尿病疑いの者に対して保健師や管理栄養士による受診勧奨を実施(文書・電話・訪問)実績:平成30年度国保特定健診受診者でHbA1c6.5以上かつ生活習慣病未治療者対象者374人【国保年金課】

<令和元年度からの新規取り組み>

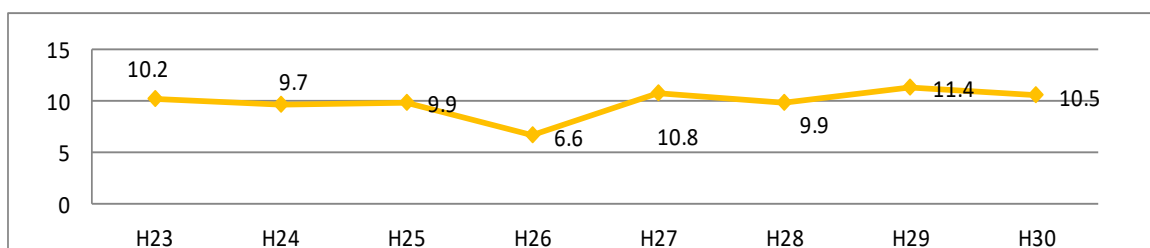
- ・ 直近2年間の「中央区から糖尿病を減らそうプロジェクト」として活動をまとめ、かつ、区民の糖尿病予防や健康的な生活習慣改善につながるような啓発チラシを作成し啓発に力を入れる。【中央区保健子ども課】
- ・ 校区イベント等での随時血糖検査を実施し、5区共通の説明資料を作成し、食後高血糖についての啓発を強化。【健康づくり推進課】

(3) 糖尿病

治療継続者の割合の増加



糖尿病有病者の増加の抑制



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(4)CKD（慢性腎臓病）の予防（P8～9）

【関係機関・団体】

- ・ 定期健康診断の確実な実施の指導。【労働基準監督署】
- ・ CKD 対策かかりつけ医との栄養連携システムとして依頼があった医院・クリニックへ非常勤職員として雇用され、栄養指導を実施。【県栄養士会】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、CKDの危険因子である糖尿病や高血圧等に関する研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 口腔咽頭の慢性感染症とIgA腎症との関連が言われているので、患者の啓発と治療の徹底を行う。【熊本市歯科医師会】

<令和元年度からの新規取り組み>

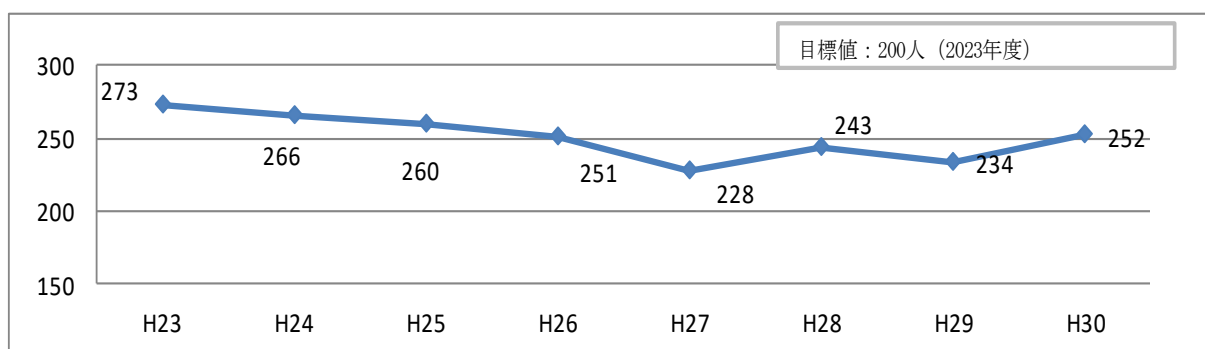
- ・ CKDハイリスク群への電話、訪問による受診勧奨及び保健指導【協会けんぽ】

【行政】

- ・ CKDの予防や早期発見のため、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援、糖尿病予防教室等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、循環器疾患や糖尿病の予防、特定健診の受診啓発を実施。【各区保健子ども課】
- ・ 3月の世界腎臓デーに併せた啓発を実施。市役所1階ロビーにてパネル展示及び、市民向けの講演会を実施。【健康づくり推進課】
- ・ 熊本市の紹介基準をもとに、かかりつけ医から腎臓専門医への患者紹介を実施。病診連携のシステムを維持している。【健康づくり推進課】

(4)CKD（慢性腎臓病）

新規人工透析者数の減少



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(1) こころの健康 (P10~11)

【関係機関・団体】

- ・ 事業所の産業保健スタッフ等を対象に、メンタルヘルスケア関連及びストレスチェック制度導入等の研修会を開催。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 看護職のメンタルヘルスケア研修をスタッフ編と管理編を2回開催し合計95名が参加した。【県看護協会】
- ・ 養護教諭やソーシャルワーカー等と連携し、相談活動を実施している。また、月1回のきずなアンケートや年1回の心のアンケートを実施している。【楡木小】

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ かみ合わせの不調や顎関節症と心の健康との関連が言われているので、その点にも配慮しながら治療にあたる。【熊本市歯科医師会】

【行政】

- ・ 精神的問題や育児不安等を抱える妊産婦に、産科医療機関と連携し妊娠中から訪問等の支援を実施。出産後も産後うつ等の産婦への訪問等を早期に実施し、切れ目のない支援を行っている。【5区保健子ども課】
- ・ 学校におけるこころの健康についての環境整備や早期発見の取り組みとして、児童生徒や保護者が悩み等を話せるようにスクールカウンセラー、心のサポート相談員の配置やスクールソーシャルワーカー、ユア・フレンドを派遣した。【総合支援課】
- ・ 年に4回精神科医・弁護士等による包括相談会（相談件数 延べ74件）を開催。また、自殺予防週間にあわせて時間を延長し電話相談（相談件数140件）を実施。

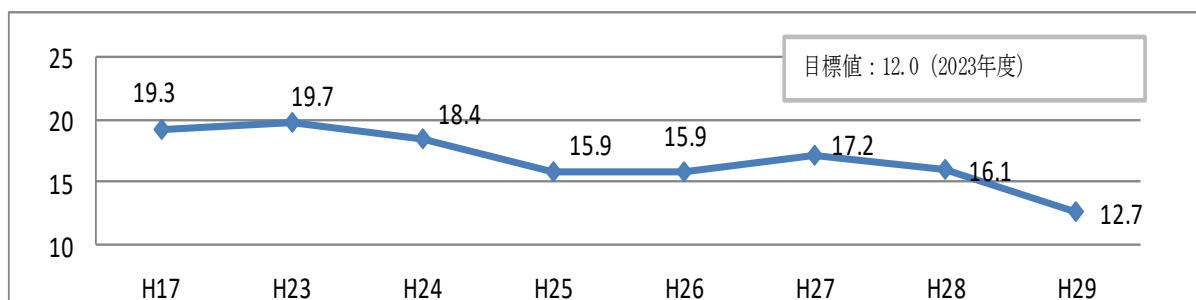
【こころの健康センター】

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 自殺未遂者の再企図を防ぐため、自殺未遂者支援に取り組む。

(1) こころの健康

自殺者の減少（人口10万人当たり）



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(2) 次世代の健康 (P12~14)

【関係機関・団体】

- ・ 妊婦歯科健診の徹底と、歯周病や喫煙と早産との関係の啓発を行う。 【熊本市歯科医師会】
- ・ 内科検診や歯科検診により疾病の早期発見に努めている。保護者との連絡を密に取ることで、園児の健康状態を常に把握している。怪我や病気にかかった場合、保護者連絡、病院への診察同行、保護者による受診、など適切な対応に努めている。【熊本市私立幼稚園・認定こども園協会】
- ・ 全市内小学校4年生で肥満度20%以上の児童を対象にして希望者に予防検診を実施した。受診者数は346名。後日、その児童と保護者に対して医師、栄養士、理学療法士らからの講演会を開催した。【市医師会】

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 子どもの命を守る活動として「子どもの虐待防止」に関する研修会を看護職対象に開催する予定【県看護協会】

【行政】

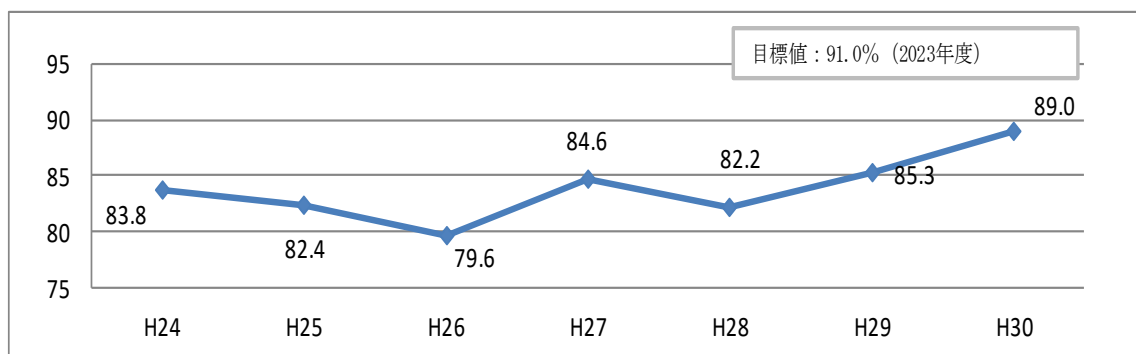
- ・ 安心して子どもを産み育てられる子育て家庭の支援と、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を産科医療関係者や小児医療関係者、精神科医療関係者、行政機関等と協働で実現していくため、「赤ちゃんとお母さんの安心づくり研修会」を年1回開催。(H30年度実績 庁外41機関99名、庁内11課38名出席)
- ・ 南区管内の子育て中の母親等が育児不安を軽減し、地域の中で孤立することなくいきいきと安心して子育てができるよう、ボランティアを養成(子育て訪問支援員)し家庭訪問による支援を行う(子育て訪問支援員養成:6名 訪問活動 32世帯 延べ159回実施)

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 防災の視点を取り入れた、校区の子育て支援マップ改訂版を作成し、赤ちゃん訪問事業や子育て支援ネットワークの活動で配布予定。

(2) 次世代の健康

子育てが楽しいと感じる市民の割合



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(3) 働き盛り世代の健康 (P15~16)

【関係機関・団体】

- ・ 事業所特有の健康課題を把握し、健康増進への取り組みを促進するため、事業所単位の健診結果等分析シート（ヘルスター通信簿）を提供。【協会けんぽ】
- ・ 産業医の選任義務が無い労働者数 50 名未満の事業場を対象に定期健康診断の有所見者に対する医師の面接指導や保健指導等を実施している。【熊本産業保健総合支援センター】

<令和元年度の新規取り組み>

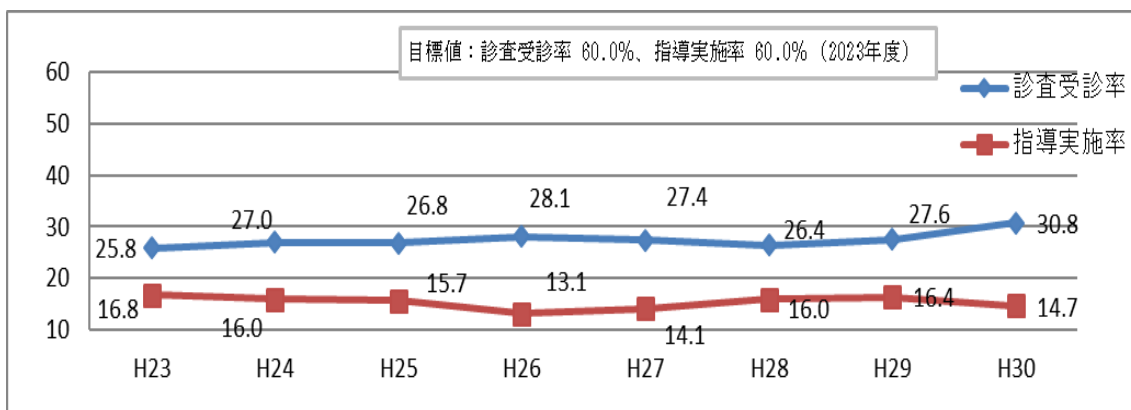
- ・ 中小企業家同友会、建設業協会等と連携し、健康経営に取り組む事業所を増やす。【協会けんぽ】

【行政】

- ・ 国保の働き盛り世代 40 代・50 代のそれぞれに勧奨内容を変えて、ハガキによる特定健診受診勧奨を実施。【国保年金課】
- ・ 民生委員児童委員等へのストレスに関する講話（5 回 参加者 1,443 人）。

(3) 働き盛り世代の健康

特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(4) 高齢者の健康 (P17~18)

【関係機関・団体】

- ・ シニアカフェ：低栄養予防や閉じこもりによる孤立化を防ぐため、簡単な食事を一緒に作り、一緒に食べる共食の機会を作る会を実施した。【食生活改善推進員協議会】
- ・ 各町内単位で行われているサロンにて、健康づくりや介護予防を実施する意義や価値の共通理解を行い、いきいき百歳体操等で実践できている。【中央区代表】
- ・ 地域包括ケアシステム推進会議に参加し、介護予防のための助言を行う。【県栄養士会】
- ・ いきいき百歳体操を進めている。【地域包括支援センター連絡協議会】
- ・ 武蔵校区ふれあいサロン（毎週火曜日に各町内に午前中は頭の体操やゲーム。午後はカラオケ、発声練習など）を開催した。【北区代表】

<令和元年度の新規取り組み>

- ・ ハッピーライフカード無料検診へのさらなる協力。地域ケア会議への積極的な参加【熊本市歯科医師会】
- ・ 11月のシティFM健康サロンで高齢者に多い誤嚥性肺炎予防についてアナウンスする予定。【県看護協会】

【行政】

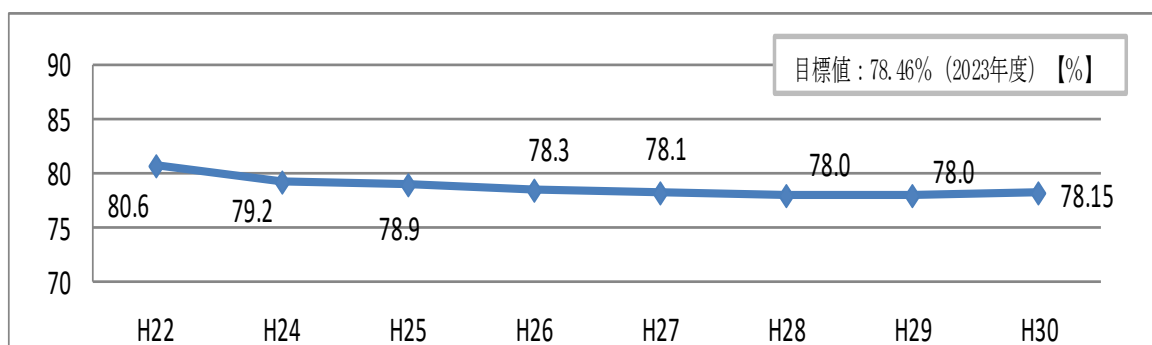
- ・ 認知症について正しく理解し、認知症の方や家族を見守る「認知症サポーター」を養成するための講座を実施。（認知症サポーター養成数 9,959人）【高齢福祉課】

<令和元年度の新規取り組み>

- ・ 「くまもと元気くらぶ」において、フレイル予防、低栄養予防、口腔機能向上についての健康教育を行う。【各区保健子ども課】

(4) 高齢者の健康

65歳以上の元気な高齢者の割合



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(1) 栄養・食生活 (P19~21)

【関係機関・団体】

- ・ 日本栄養士会として「栄養の日」を設け、広く一般の方に栄養情報、食育等普及啓発イベントを実施。【県栄養士会】
- ・ 家庭や地域における食生活を中心として健康づくりを推進するため、生活習慣病予防を中心に、食生活改善に関する知識の普及と調理実習を実施した。(すこやか食生活改善講習会 平成 30 年度：92 校区 1,839 名)【食生活改善推進員協議会】
- ・ 食育の一環として、また田崎市場に対する理解を深めてもらうため、市場見学を受け入れている。(平成 30 年度：年間 18 団体、505 名)【熊本地方卸売市場】
- ・ 体験出前授業の実施。小学校 5 年生、中学生を対象に水稻授業を実施。種まき、田植え、稲刈り体験までのお米の授業を行い、体験型の食育活動を実施した。【熊本市農業協同組合】
- ・ 熊本市内の小中学校に、3,500 枚の焼海苔を配布し、市産海苔の PR を行った。【熊本市漁業後継者クラブ】

<令和元年度の新規取り組み>

- ・ 食育の啓発活動を行う。よく噛める事は栄養の吸収にも係わって来るので、しっかり食べることができる口腔内環境を整えるように啓発を行う。【熊本市歯科医師会】

【行政】

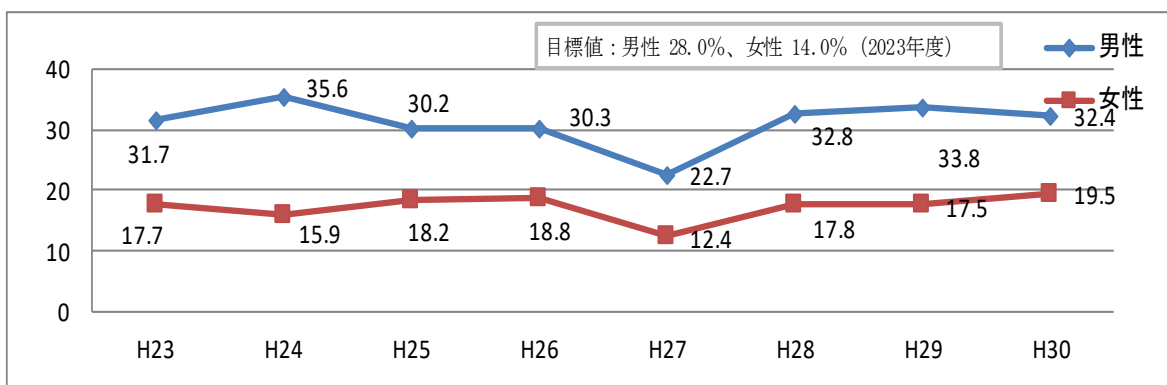
- ・ 地産地消推進のための食育事業として、熊本農業高校や子ども食堂と連携し、農産物の収穫体験や生産者との交流、調理提供を行う食育イベントを実施した。【農水ブランド戦略室】
- ・ 飲食店における栄養成分表示等健康サポートメニューを提供する健康づくりできます店の増加。(登録店 218 店)【健康づくり推進課】

<令和元年度の新規取り組み>

- ・ 地産地消推進のための食育事業として、シェフと小学生による生産者との交流会、食をテーマとしたシンポジウム等を実施予定。【農水ブランド戦略室】

(1) 栄養・食生活

20、30 代男性の 1 週間あたりの朝食の欠食率の減少



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(2) 身体活動・運動 (P22~23)

【関係機関・団体】

- ・ 託麻原校区では体協主催でバレー、ミニバレー、卓球、バドミントン他を毎週開催。週延 200 名以上の地域住民が参加し運動習慣を身に付けている。【中央区代表】
- ・ 子どもから高齢者までを対象に、スポーツ教室を開催している。(実績：小学生以下：193 名、中学生～高校性：58 名、19 歳～59 歳：69 名、60 歳：593 名)

【熊本市スポーツ推進委員協議会】

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 協会会員の健康支援を目的とし福利厚生として熊本市内のスポーツクラブと提携し運動を勧める予定。【県看護協会】

【行政】

- ・ 水前寺江津湖公園を活用したウォーキングなどの運動に関する健康プログラムのスキームを検討している。【公園課】
- ・ 総合型地域スポーツクラブの育成・支援のため、学校体育施設の年間優先確保を行った。また、市民が気軽に利用できるスポーツの場として、学校教育に支障のない範囲で学校施設を開放した。(実績：小学校：92 校、中学校 42 校 計：134 校)【スポーツ振興課】

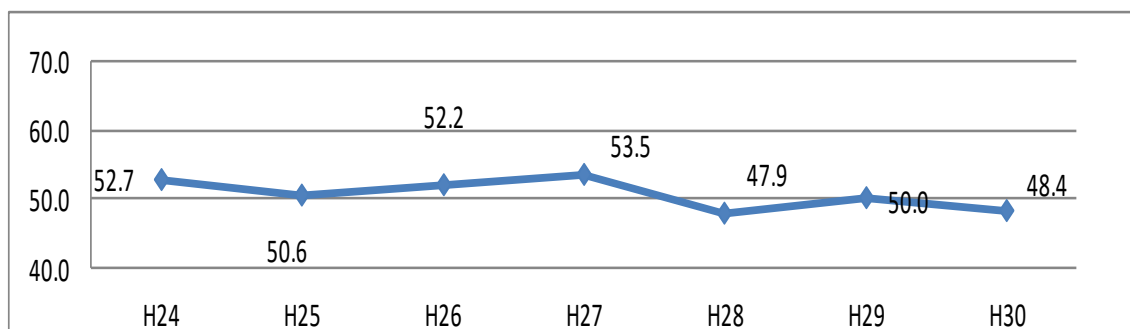
<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 熊本市民スポーツフェスタの実施・検討

子どもから高齢者までスポーツに親しめる大会として、春季に区民フェスタ、夏季にスイミングフェスタ等 8 種目、秋季に体操教室等 2 種目、冬季にアイスフェスタ等 2 種目を実施予定。また、参加への手軽さと公平性を両立するために、募集形態を見直し、一般参加の部と総合型地域スポーツクラブ対抗の部とに分けて募集。これによって参加者の増加を図り、もって市民によるスポーツの習慣化につなげることを企図している。会にて開催形態の検討を行う予定。【スポーツ振興課】

(2) 身体活動・運動

1 回 30 分以上の運動（ウォーキング等）を週 1 回程度以上している市民の割合



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(3) 休養 (P24)

【関係機関・団体】

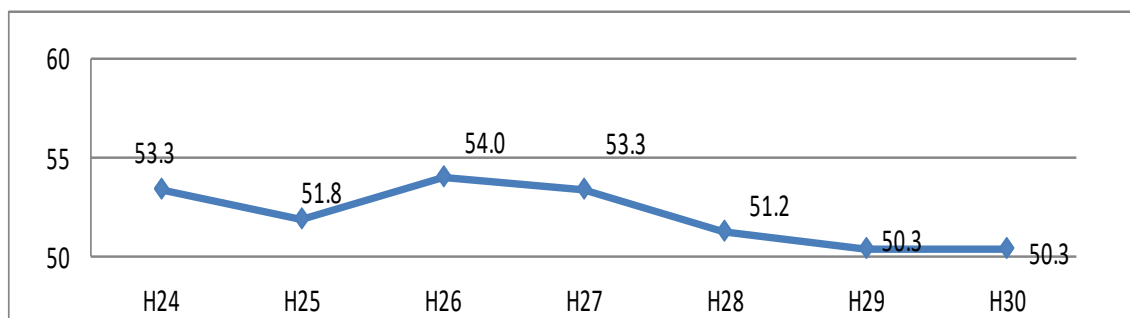
- ・ アロマを取り入れたストレスケアや各種リラクセス法、筋弛緩法や自律訓練法・ストレッチやマッサージ等のセルフケアの研修を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

【行政】

- ・ 保護観察所事業、ふれあい出前講座等において、ストレス対処法について講話を実施。
(引受人会講話 3回 参加者数 63人、出前講座等 5回 参加者 1,443人)【こころの健康センター】
- ・ 地域の各種健康イベント等を通して、健康づくりのための「睡眠指針 2014」の内容について啓発を実施。【東区保健子ども課】

(3) 休養

睡眠を十分にとっている市民の割合



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(4) 飲酒 (P25)

【関係機関・団体】

- ・ 公立校に非常勤で配置されている各学校薬剤師が飲酒・喫煙・薬物乱用防止教室を実施している。【市薬剤師会】
- ・ 6年生の体育（保健領域）で飲酒の害と健康について学習している。【榎木小】

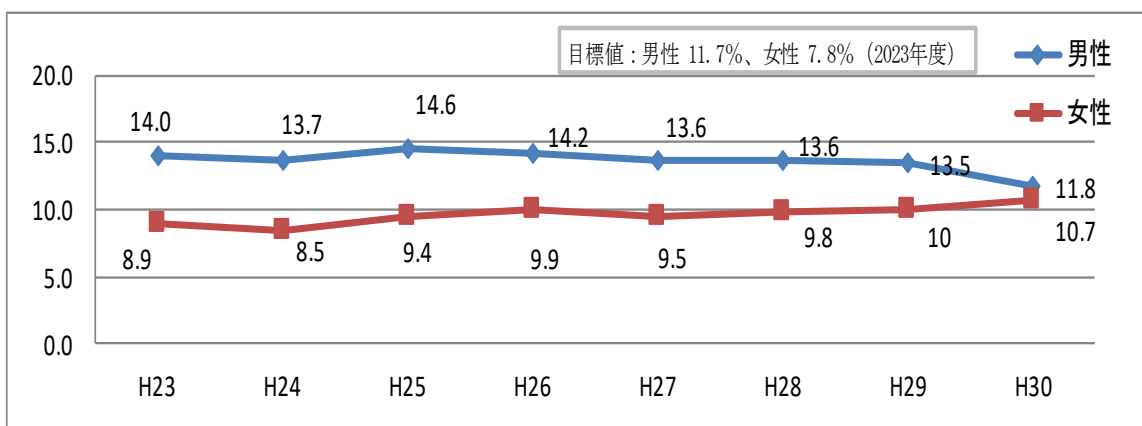
【行政】

- ・ 熊本地震被災者向け資料「飲みすぎに注意しましょう」をホームページに掲載し、継続して啓発を実施。【こころの健康センター】
- ・ 地域の実施する各種イベントにて、アルコールパッチテストやアルコール関連の啓発を実施。【中央区・南区保健子ども課】

(4) 飲酒

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者

(男性は清酒換算 2 合以上、女性は清酒換算 1 合以上の者) の割合の減少



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(5)喫煙 (P26~27)

【関係機関・団体】

- ・ 喫煙と歯周病、口腔癌との関係を啓発し、禁煙指導を行う。【熊本市歯科医師会】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、喫煙の健康影響と禁煙支援、COPDの啓発等の研修を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

<令和元年度からの新たな取り組み>

- ・ 6月に「禁煙支援に活かす」ことを目的に、禁煙の知識や支援に役立つスキルを学ぶ研修会を看護職対象に開催した。【県看護協会】

【行政】

- ・ 親子（母子）健康手帳交付時、妊婦やその家族に喫煙者がいる場合、禁煙手帳を配布。

【各区保健子ども課】

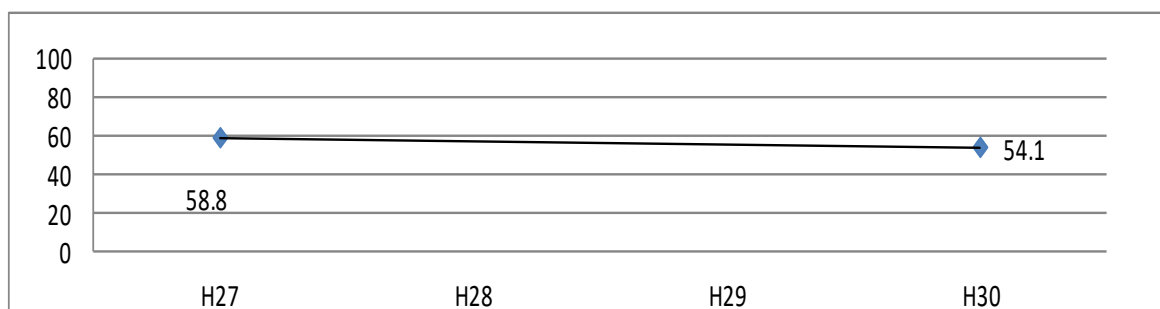
<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 市施設を原則敷地内禁煙とした（7月から）
- ・ 医療機関、飲食店及び自治会長を対象とした受動喫煙防止に関する説明を実施する。
- ・ 受動喫煙防止に関するチラシ等配布及びポスター掲示する。

【健康づくり推進課】

(5) 喫煙

COPDの認知度の向上



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(6) 歯・口腔の健康 (P28~30)

- ・ 歯科医師会と連携し、歯みがき巡回指導を市内 10 校に実施 (対象: 小学校 3 年生、特別支援学級児童) 【歯科衛生士会】
- ・ 「お口育ては食育にあり~保育現場から子どもの健口へ~」と題した歯科衛生士による研修会を実施。保育関係者 47 名参加。【熊本市保育園連盟】
- ・ 笑顔ヘル C キャンペーン (上通りびふれす広場) において人形劇等の歯科啓発を実施 【8020 健康づくりの会】

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 歯っぴー39チャレンジの推進。産婦人科、小児科、薬剤師会等、関係団体への協力依頼。学校歯科医師のスキルアップと現場への積極的な係わりを促す。フッ化物洗口事業へのさらなる協力。【熊本市歯科医師会】
- ・ 歯科衛生士の資質向上に向けた研修会を実施 (地域包括ケア実現のための多職種における地域ケア会議助言者養成研修) 【歯科衛生士会】

【行政】

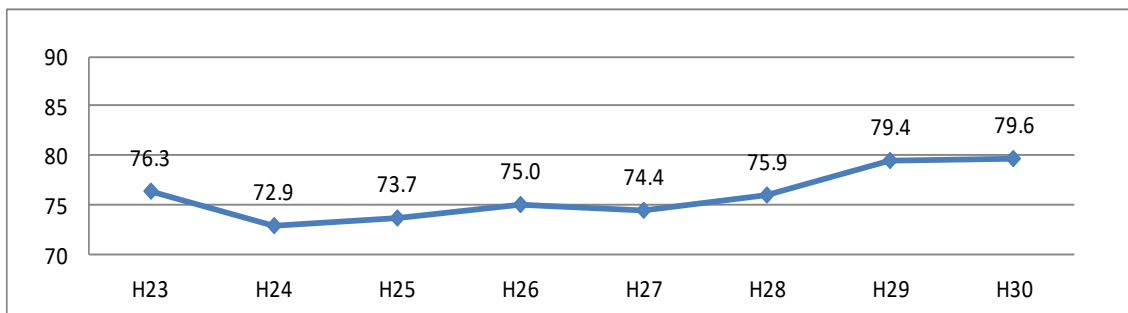
- ・ 無料歯科健診券付き予防啓発カード「Happy 1 life」を配布し、定期健診を受ける市民を増やすとともに保護者から子どもへむし歯菌の感染を防ぐ取り組みを実施。(市役所・区役所で配布)
- ・ フッ化物洗口について、保育園や幼稚園、小学校での実施に向け、事業説明会などの実施。

<令和元年度からの新規取り組み>

- ・ 40歳と60歳の市民を対象に歯周病検診を実施。(市歯科医師会加入医療機関約300ヶ所)

(6) 歯・口腔の健康

3歳児でむし歯のない者の増加



＜健康を支え守るための社会環境の整備＞

(1) 小学校区単位の健康まちづくり (P31～32)

【関係機関・団体】

- ・ 健軍商店街の医商連携による「健康フェア」へ参加し、生活習慣病等に関連したお薬相談会を行った。【市薬剤師会】
- ・ 健軍商店街の医商連携による「健康フェア」に参加し、「健康相談」「血圧・体脂肪測定」等を行っている。【県看護協会】
- ・ 校区イベントの実行委員会で保健子ども課より校区の健康課題について説明してもらい地域の健康課題について情報を共有した、【西区代表】

【行政】

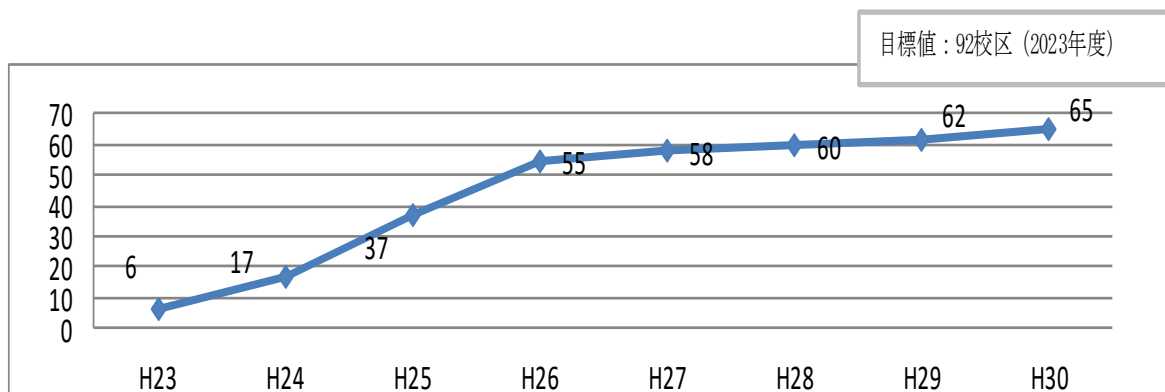
- ・ 「けんつく会（健康をつくるボランティア医師の会）」の協力のもと各校区イベントで簡易血糖検査を実施。随時血糖が境界値以上のものは受診勧奨など個別指導を実施。（実績：10校区 420人）
- ・ 健康まちづくりと地域包括ケアを一体的に推進し、ボランティア同士の横のつながりを目的に、「ボランティア交流会」を2回開催。
- ・ 全校区において健康づくり部会等で健康に関するデータや健康課題の共有。地域の健康まちづくり部会のリーダーを中心に、地域包括ケアの構築に不可欠な健康まちづくりの推進について研修会を開催。西区健康まちづくり研修会（H31.3.6参加者37名）
- ・ 熊本市南区ウォーキングキャンペーン実施。ウォーキングを推奨している南区の「まちづくり推進事業」として定着。期間中の健康イベントは3回実施。
- ・ 住民の健康づくりを支援するために、北区職員の健康にも関心が持てるよう「職員健康意識調査」を実施。また「職員向け学習会」を2回開催した。健康まちづくり報告会では、すべての校区の活動発表をポスターセッション形式で実施。

＜令和元年度からの新規取り組み＞

- ・ 関係課が保有している校区ごとに抽出できるデータを集約し、校区健康カルテ及び校区データ集を作成する。【健康づくり推進課】

(1) 小学校区単位の健康まちづくり

市民と協働で健康をテーマとしたまちづくりを実施する校区の増加



＜健康を支え守るための社会環境の整備＞

(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援 (P33～34)

【関係機関・団体】

- ・ 市が実施する食生活改善推進員研修会に参加し、講話や調理実習から、様々な情報や知識を得た。【食生活改善推進員協議会】
- ・ 8020推進委員募集のポスター掲示への協力。8020健康づくりの会主催の講演会等への協力。【熊本市歯科医師会】

【行政】

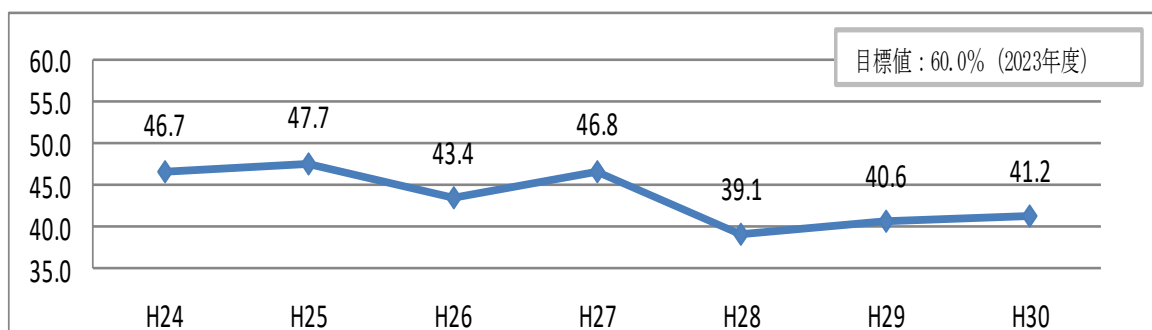
- ・ 介護予防サポーター養成講座を実施。
- ・ 食生活改善推進員がボランティア活動に生かすために必要な知識と技術を含め、資質向上のための研修会の実施した。(53回 2001人参加)

＜令和元年度の新規取り組み＞

- ・ 地域における介護予防活動を促進するため、介護保険サポーター・ポイント制度を拡充し、65歳以上の介護予防サポーターにポイント手帳を交付し、活動に応じポイントを付与できるようにした。【高齢福祉課】

(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援

過去1年間に地域活動に参加した市民の割合 (参加したことがある)



<健康を支え守るための社会環境の整備>

(3) 企業・大学等の健康づくり活動の促進 (P35)

【関係機関・団体】

- 協定先である「東京海上日動」「アクサ生命」「損保ジャパン日本興和ひまわり生命」と連携し、健康宣言事業所数の拡大を図る。(30 年度末現在健康宣言事業所数 1,368 社) 【協会けんぽ】

【行政】

- 大学生等若い世代に対して、料理の実践力のアップを含め食育実践講座を開催した。(21 回開催) 【健康づくり推進課】
- がん対策を推進する企業 1 社とがん対策企業等連携協定を締結 (H31. 1. 30) 【健康づくり推進課】

<令和元年度の新規取り組み>

- 大塚製薬と健康増進に関する連携協定を締結し、市民に対して「熱中症対策アドバイザリー養成講座」、企業に対して「健康経営セミナー」を実施。【健康づくり推進課】

(3) 企業・大学等の健康づくり活動の促進

健康づくりできます店の登録数の増加

